

地震に対する備えは大丈夫？ 自宅の災害リスクを知る3つの方法



地震に対する備えでは、自宅の耐震化を進めることが最も大切ですが、自宅のある場所の地盤の強弱、海拔などの状況を確認しておくことも忘れてはなりません。今年の元日に能登半島で発生した地震では、同じ地域内でも、強固な地盤の上に建つ家と、軟弱地盤の上に建つ家とでは大きな差が生まれました。一方で軽微な被害ですんでいましたが、埋立地や川の流域周辺の軟弱地盤では、建物の倒壊が発生し、明暗が分かれました。

各自治体が公表しているその地域のハザードマップが役に立ちますが、それとは別に簡単に自宅のリスクを知る3つのサイトを紹介します。

<①地震10秒診断——防災科研>

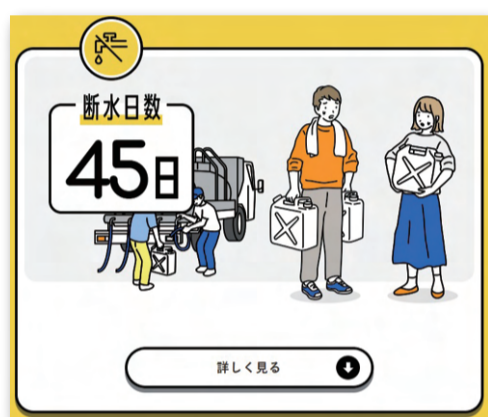


一つ目は国立研究開発法人防災科学技術研究所（防災科研）が提供している、「地震10秒診断」です。「地震10秒診断」で検索するとすぐにこのサイトが見つかり、左図のような画面が現れます。自宅パソコンを操作している場合には、左下の「現在地で診断!」をクリックすればすぐに自宅のリスクが表示されます。弊社で検索すると、左のような画面が出てきました。

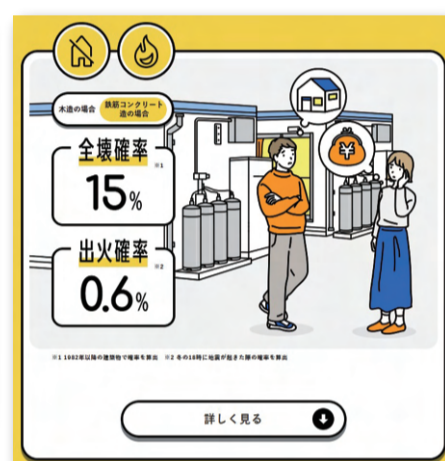
このように、弊社の地震リスクは「30年以内に震度7の地震が発生する確率は3%」ということでした。画面の右側では、まず地震が発生したときの停電日数は「6日」です。画面を下に動かすと、下図のようにガス停止日数、断水日数、自宅の全壊確率、出火確率を木造とコンクリート造別に知ることができます。



▲弊社のガス停止日数は「30日」



▲断水日数は「45日」

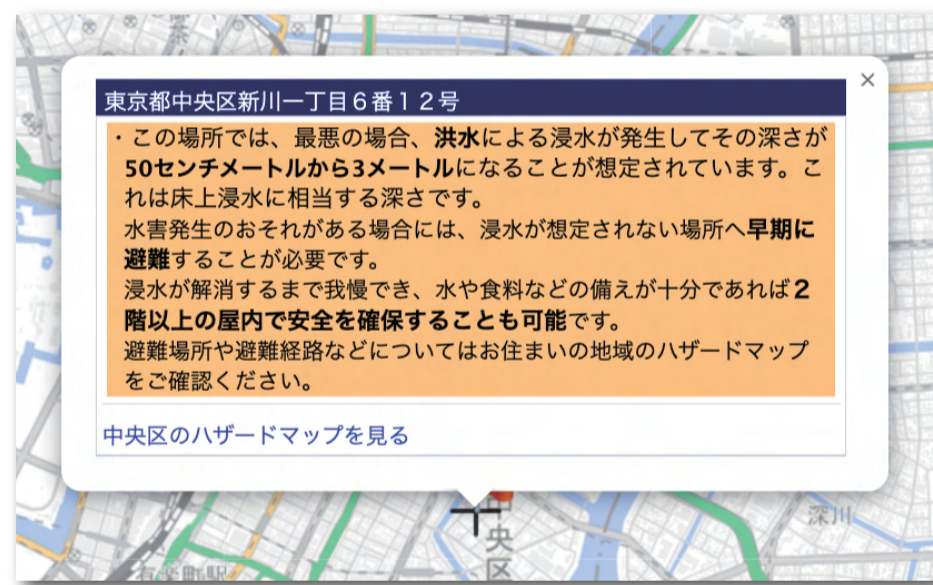


▲全壊率「15%」、出火確率「0.6%」

このような診断結果に応じて、備蓄品の備えなどの事前対策をしておけばよいでしょう。

別の場所の地震リスクを知りたいときには、最初の診断画面の右側を下に下げると、一番下に「場所を変えて診断しなおす」という欄があるので、そこに調べたい場所の住所を入れればよいのです。

<②ハザードマップポータルサイト——国土交通省>



国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」では、二つの機能を利用できます。まず、身の回りの災害リスクを調べる「重ねるハザードマップ」では、知りたい場所の住所を入力することで、洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示できます。

さらに地域のハザードマップを閲覧できる「わが町ハザードマップ」では、市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。

上図が、弊社の住所を入力して得られたリスクのコメントです。また、洪水・内水をクリックすると、洪水浸水想定区域（想定最大規模）——河川が氾濫した際に浸水が想定される区域と水深（想定し得る最大規模の降雨）のマップが表示されます。

<③地盤サポートマップ——ジャパンホームシールド株式会社>



ジャパンホームシールド株式会社（JHS）の「地盤サポートマップ」では、「地震時の揺れやすさ」、「液状化の可能性」、「土砂災害の可能性」、「浸水の可能性」を見ることができます。また、「避難場所」、避難できる「公園」の表示があり、地形（弊社は、盛土地・埋立地）、地質（弊社は、「新生代の堆積岩。堆積岩は、礫や砂、泥などの堆積物が固結してできた岩石です。地球表層を広く覆い、多くの場合、地層を形成します」）のように、詳しく知ることができます。

